

ひらつか環境大賞 入賞者の取り組み事例

(1) ひらつか環境大賞 個人の部

最優秀賞(1件)

氏名	概要
船越美雪 大神 27歳	<p>実感がわきにくい温暖化対策だが、まずは家計の節約から始め、多岐にわたる実践の継続につなげている。テレビやエアコン、照明などの電化製品の省エネだけでなく、冷蔵庫や炊飯器の使い方を工夫している。また、米のとぎ汁を家庭菜園やぞうきんがけに、野菜くずをかき揚げや漬け物に使っている。</p> <p>無理なく活動しているとともに、副次効果として「子どもとのふれあいの時間が増えた」というコメントにうれしさを感じた。模範的活動を5年間継続していることも評価された。</p>

優秀賞(4件)

氏名	概要
藤木ひとみ 夕陽ヶ丘 40歳	太陽光発電設備の設置。休日はお茶や弁当を持参して家族で散歩する。米のとぎ汁を花にやる。省エネ、ごみの分別、リサイクルなど。
山田美絵 札幌町 36歳	水道の蛇口に子どもたちが手作りの節水シールを貼る。水道の止水レバーにおもりをつける(出しっぱなしにしない、すぐに止まる)。
中村裕子 四之宮 39歳	エアコンを使わない(夏は打ち水、窓を全開にする、夏に汗をかくと子どもは冬にかぜをひかない)。掃除はモップとほうき。買い物は自転車を利用、雨が降ったら徒歩(庭先の花が見られる)。その他、実践多数。
芹澤薫 東真土 25歳	使わない場所は電気のブレーカーを切る。冷蔵庫内の電球を外し、設定も弱にする。ご飯は炊飯器で保温せず、一日分を炊いてお皿に盛り、電子レンジで温めて食べる。その他、省エネの実践多数。

(2) ひらつか環境大賞 団体の部

最優秀賞(1件)

団体名	概要
平塚市立豊田小学校	<p>平成14年度から始まった「わかば環境 ISO (平塚市の施策である学校版環境 ISO)」に沿った取り組みで、学校全体として、またクリーンエコ委員会として、独自の活動を考えて取り組んでいる。特筆されるのはEM菌の活用で、野菜畑用の腐葉土を作ったり、プール清掃に生かしたりしている。また、化学ワックス・合成洗剤も使っていない。</p> <p>これらの取り組みは、ISOのPDCAサイクルを生かし、継続的改善が図られている。</p>

優秀賞(2件)

団体名	概要
虹ヶ浜西部自治会	平成13年度の「平塚市ファミリー環境ISO」から毎年度、自治会として取り組んでいる。今年度のコツコツプラン登録者数194世帯(全379世帯中、51.2%)
平塚市立大神保育園	食材の廃棄部分をウサギの餌にする。廃材を教材として再利用する。電気・水道に子どもたちと節約表示をつける。歯磨きのすすぎはコップ一杯で済ます。空き容器は水をためて洗う。砂場の上にひょうたんを栽培する。家庭や地域へも園だよりを通して啓発をする。

(3) ひらつか環境大賞 特別賞

団体名	概要
神奈川県立平塚工科高等学校	社会部がエコカーの開発・研究・製作(07ワールドソーラーバイシクルレース総合優勝)。全校の節電運動で電気代を月54,000円削減。ペットボトルを再生し、植木鉢や人形を製作。

(4) コツコツ特別賞

団体名・個人氏名	概要
平塚市ごみ減量化婦人の会	コツコツプランプラスの一步に 83 件応募
大住中学校	コツコツプランプラスの一步に 118 件応募
中原小学校	コツコツプランプラスの一步に 70 件応募
日産車体株式会社	コツコツプランプラスの一步に 122 件応募
横浜ゴム株式会社	コツコツプランプラスの一步に 135 件応募
大滝和枝	風呂の水は洗濯、トイレに使い、取りきれない水はバスタオルでふき取ってそのまま洗濯機へ入れる。
葉丸薫	約 10 年前から 2 つのコンポスターを使い、落ち葉や草花も処理。8 年前に 200 の雨水タンクを購入し、かん水に利用。
三木克江	クールビルを実践。夏はゴザ布団を敷き、アイスノンを頭につけて寝る。
川口芳江	ご飯は 5 合炊き、1 回分ずつラップにくるんで冷凍。食べるときは冷蔵庫で解凍してからレンジで温める。水筒の持参。
保田新太郎	冷蔵庫、エアコン、洗濯機、照明等を省エネ家電に切り替えた。変更できない電化製品は、こまめに電源を切る。